

事務事業名		図書館読書推進事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 総合戦略登載事業	
政策体系	政策名	03 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和43 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
	施策名	14 生涯学習の推進			
	基本事業名	03 学習活動の促進			
根拠法令		図書館法		予算科目 会計 款 項 目 事業 01 10 05 05 06 事務事業区分 A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(A～D以外)	
所属	部課名	企画政策部市立図書館			
	課長名	千葉 博世			
	係名	奉仕係	電話 26-4478		
	担当者	吉田 裕勇	内線		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 読書活動の推進を通して、本や読書の大切さを広め、市民の教養や文化の向上を図る事業。 主な業務は次のとおり。 ・読書感想文コンクールの実施(市民を対象に感想文を募集し、審査し表彰式を行い、作品集を発行する。) ・おはなしパレード(絵本等の読み聞かせ会を実施する。月2回) ・お楽しみ親子劇場(子どもを中心とした市民を対象に、人形劇や歌などの鑑賞機会を提供する。年1回) ・読書ボランティアの育成・支援(読み聞かせ会などの活動機会や各種情報を提供し、育成・支援を図る。) ・ブックスタート(7カ月児健康相談に絵本等を贈り、読書に親しむ機会を提供する。) ・各種図書館展の開催(時宜を得たテーマを設定し、図書館の展示を行う。随時) ・その他読書普及に係る事業(随時) 等 事業費は、上記事業に係る報償費、消耗品費等に支出される。					
全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量 (千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0					

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

上記記載に加え、子どもに読み聞かせをしたい方などを対象に「家庭での読み聞かせ講座」を開催。

今年度計画(今年度計画している主な活動)

定期的実施するものに加え、時宜得た取り組みを随時実施。

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

市民

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

図書館に親しむ機会が提供され読書活動と図書館利用の普及が図られる。

④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)

学習の機会が提供される。学習意欲が喚起される。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア 事業(参加型)開催回数	回
イ 図書展開催回数	回
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ 人口	人
キ	
ク	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ 事業(参加型)参加者数	人
シ 図書館資料の貸出点数	点
ス 図書館資料の貸出者数	人

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
			都道府県支出金	千 円						
			地方債	千 円						
			その他	千 円						
			一般財源	千 円	547	518	580	619	619	619
			事業費計 (A)	千 円	547	518	580	619	619	619
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	2	2	3	3	
		延べ業務時間	時 間	1,800	1,800	1,100	1,100	1,100	1,100	
		人件費計 (B)	千 円	7,200	7,200	4,400	4,400	4,400	4,400	
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	7,747	7,718	4,980	5,019	5,019	5,019	
⑤活動指標		ア	回	39	39	40	40	40		
		イ	回	7	10	14	15	15		
		ウ								
⑥対象指標		カ	人	38,167	37,633	36,933	36,806	36,679	36,437	
		キ								
		ク								
⑦成果指標		サ	人	1,343	1,199	1,111	1,230	1,230	1,230	
		シ	点	153,641	150,653	140,594	144,800	149,100	153,500	
		ス	人	27.852	27.685	25.340	26.100	26.800	27.600	

事務事業ID	0879	事務事業名	図書館読書推進事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
「読書感想文コンクール」は昭和43年から、「おはなしパレード」は平成10年より、「ブックスタート」は平成17年より行われている。いずれの事業も、未就学児、児童・生徒をはじめとした市民の、読書活動の推進と図書館利用の促進を目的に開始された。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
ICTをはじめとする市民を取り巻く環境の変化などに伴い、ニーズの多様化が進み、それに対応した事業展開や情報提供が求められている。
また、公共図書館の果たすべきとされる役割も広がり、地域事情に合った取り組みが必要である。
なお、地域において読書ボランティア活動が定着しているとともに、岩手県内を中心に図書館間の協力・連携が館種の枠を越えて広がりを見せており、各種団体との連携した活動が可能となっている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
参加者及び関係者からは好評を得ていると認識している。
図書館協議会では、既存の枠にとらわれない取り組みを期待されている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 本事業の取り組みは読書活動の推進と図書館利用を促すことから、生涯学習の推進につながっている。また、子育て支援等の面においても、その一端を担うものとなっており、市の政策体系と結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 図書館サービスは、設置自治体が責任を持って住民に提供すべきものであり、住民の教養・文化の向上を目指し、教育効果を高める観点から、公共関与は妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 市民及び図書館利用者を対象としており、適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 対象者のニーズや要望を汲み取り、取り組み内容を改善・充実させることにより、向上が見込まれる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 市民(利用者)の読書機会の減少、読書習慣形成の機会が損なわれることにつながり、しいては教育効果を減じる恐れがある。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費は、読書感想文コンクールの審査の謝礼、ブックスタート事業の配布絵本等の購入費等、最低限を計上している。また、市民ボランティアの協力を得て事業を行っており事業費削減は難しい。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 職員は、事業実施の主体となって企画、調整、広報などの事務を行っており、事業の継続性から見ても、これ以上の削減は難しい。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の対象となる受益者は全市民であり、広く参加を呼びかけていることから公平であると考えられる。また、図書館サービスは、無料原則のもと提供されていることから、受益者に負担を求めることは制度になじまない。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果																						
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止		左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 より多くの市民がこうした機会に触れられるようにしていくことが重要である。そのため、市民への周知において、従来の新聞やポスターなどによる告知的な広報に加え、本や読み聞かせの効用や重要性などをアピールすることによって、市民の理解と関心が高まり、参加が促されるよう事業展開を図っていく。		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	幼年期からの読書習慣形成のための読み聞かせ会、ブックスタート等の催事を行い、参加者からは好評を得ている。さらに、広報宣伝を強めるとともに、参加者ニーズを把握したうえでの運営が必要であり、参加しやすい環境を作ることで、参加人数の増加が見込まれる。 また、読み聞かせボランティアの技術向上で、本に触れる機会をアピールすることができる。